

「用の美」の木製品展

讃岐民芸館の秋の企画として、「『用の美』の木製品展」を開催します。

当館は、大きなものでは、幅約4メートルのジョージナカシマのテーブル（商工奨励館2階展示）、小さなものは直径7センチの茶托など、合わせて約700点の木製品を所蔵しています。

その1割ほどを占めるのが筆筒です。江戸時代から明治時代にかけて作られた船筆筒や帳場筆筒、車筆筒は、頑丈な作りに加えて、吉祥紋など精巧な金具が施されています。また大工道具の墨壺や、和菓子作りに使う菓子型なども、その作りは非常に緻密で美しい出来上がりです。

「民芸」という言葉を作った柳宗悦（やなぎむねよし）は、名もなき工人たちが作った生活道具に美を見出し、「用の美」と説きました。

今回、展示する木製品も、用途に応じた役割を果たしながら、人々の暮らしに寄り添ってきました。半世紀以上が経った今でも、ささやかな美しさを醸し出す品々をご鑑賞ください。



ふなだんす はんびつ
船筆筒 (半櫃)



菓子型 (菊)



すみつぼ
墨壺



くるまだんす
車筆筒

会 場	栗林公園 讃岐民芸館・古民芸館
期 間	令和8年9月10日(木)～12月6日(日)
料 金	観覧無料 ※ただし入園料が必要